

情報公開請求における業務効率化

人事院事務総局電子化推進室

(元国立天文台チリ観測所)

安 井 孝

概要

公的機関における議事録や技術文書の公開請求が増えてきました。セキュリティや個人情報保護などの観点から大量の文書にマスキングを行うことが必要になっていますが、対応作業は通常業務以上の負荷がかかります。

効率よく確実に処理するためのアプローチをいくつか紹介いたします。

1. 情報公開制度とは

行政機関の保有する情報の公開に関する法律（平成 11 年法律第 42 号）および独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成 13 年法律第 140 号）に基づいて、行政機関や独立行政法人等が保有している文書の開示を求められることができる制度である。昨今話題となった「PKO における『日誌』問題」やモリ・カケ騒動などに見られるように、国民の知る権利を保障するため政府機関等が組織的に扱う文書について開示が求められる場合が増えてきている。ただし、以下のような場合は公開ができないこととなっている。

- ・個人に関する情報
- ・国の安全等に関する情報
- ・審議、検討等に関する情報
- ・法人に関する情報
- ・公共の安全等に関する情報
- ・事務または事業に関する情報

予算が適正に執行されているかどうかを問われることもあり、透明性を確保しつつセキュリティ等に関する情報は適切に守秘を行い、問題のない部分は改竄することなくありのままに公開することが望ましいと考えられる。情報システムの場合、具体的な内容は攻撃の対象のヒントを与えることにもなるため実際には膨大なドキュメントに対して適切な加工をミスなく行うことは非常に難しく、時間と人手を要する地道な作業となる。

2. 議事録など WORD 形式の場合

一般的に表計算ソフトでの VBA マクロを用いられることが多いが、ワープロソフトのマクロは余り使った経験がないものと思われる。使ってみるとこれがなかなか面白い。数値でなくドキュメントを扱うソフトなので当たり前といえばその通りだが、ドキュメント全体、章立て、文節、単語などを扱うマクロの関数やプロシジャが準備されている。筆者の場合は NG ワードと OK ワードのリストを作成し、検索の関数を用いて自動的に蛍光ペンやマスキングを行うマクロを作成し繰り返し適用しながら最終形へ近づけていった。どの語句や言い回しにマスクをかければ良いかを判断するのに最初は時間を要したが、複数の人間の目で確認しながら何度も適用していく、言わばヒューリスティックな方法によって

方針を決めることができ、一度その方針が決まれば、かなりの効率で大量のドキュメントをこなすことができるようになった。

3. PDF 形式の場合

元ネタが WORD 形式でないものや既に PDF 形式で保管されている文書がある場合、前章のやり方ではうまくいかない。

まず PDF を生成できる Acrobat が持っている JavaScript 実行の機能及び Form の機能を使って VBA マクロと同じようなことをやろうと考えた。JavaScript の API などもあることが分かったが、バージョンによって動作が違ったりしてなかなかうまく実装まではたどりつけなかった。しかも納期が迫っていて、作成するツールを別の職員にも快適に使うと貰おうと思うと問題がある。

そこで、着眼点を変え、元々 Acrobat 系ソフトがマスキング（墨消し）の機能を備えていることを利用することにした。またバッチ処理とも言うべき「アクションウィザード」により一連の処理を自動的に繰り返して行うことができる。今回これを組み合わせて効率よくマスキングを行うことができた。

簡単に説明すると各ユーザの NG ワードに相当する単語のリスト（テキスト形式）を XML 形式に変換する VBA マクロを作成し、出力された XML 形式のファイルをアクションウィザードによって予め定義された自作ツールへ読み込んで実行する。

4. 今後の展開

通常業務においても合理化並びに経費削減の名のもとに人は減らされているのに $+\alpha$ の仕事が増している。これは公的機関に限らず民間においてもであろう。創造的な活動や、きめの細かいサービスを心掛けるためには余りに仕事量が多い。事務職の PC を使う仕事の大半が過去の案件のペースト&コピーと修正・更新だということをどこかで読んだことがある。もう「24 時間働けますか？」の時代ではないし、残業はやらずになんとかしようということにもなってきた。

今回、実施した手法や開発したツールを組織として活用すれば、全体でかなりの工数を削減できることが実感できた。これが多くの仕事を抱えている人たちへの一助となれば幸いである。

昨今、深層学習を利用した AI が画期的な成果を見せ始めている。今後すべての仕事が AI に置き換わることはないとしても、さらにこのテーマを進めていくとすれば、客観的に文書を改竄することなく効果的で確実なマスキングを提供もしくはアドバイスを得るために AI の手法を取り入れていくことも考えている。

以 上